

2013年10月29日 公益信託ENEOS水素基金 第8回助成金贈呈式を開催

本基金は、水素エネルギー供給に関連する独創的な基礎研究を継続的に助成することにより、水素を利用したエネルギーシステムを広く社会に普及させ、将来に亘って持続的に発展し続ける社会を創造することを目指している。年間総額 5000万円の研究助成を約30年にわたり安定的に継続し、技術のブレイク・スルーを引き起こすことを目指している。第8回目となる今年度は、43件の応募から厳選な審査により6件のテーマが選考された。

贈呈式では一色社長より、「ENEOS 水素基金は過去 39 件の有望な研究テーマに助成し、多くの成果を生んできました。今回、助成対象となられた研究テーマも、技術革新の起爆剤となる可能性を秘めたものばかりと聞いています。本基金の助成を最大限に活用し、独創性・新規性に溢れる研究成果を産み出すことによって、水素エネルギー社会の早期実現に貢献して頂きたいと思います。」との挨拶の後、堂免一成運営委員長（東京大学工学系研究科教授）より、助成対象者への目録が贈呈された。

また、贈呈式に先立ち開催された前年度助成対象者 4 名による成果報告会では、活発な質疑応答が展開された。

（研究開発企画部 水素事業化グループ 立石 大作）

2013年度 研究テーマおよび助成対象者

研究部門	研究テーマおよび助成対象者
水素製造技術	「カーボン半導体複合光触媒によるソーラー水分解システムの開発」 岩瀬 顕秀（東京理科大学理学部応用化学科 助教）
	「エネルギー構造を制御したナノ構造金属酸化物／金属錯体ハイブリッド光触媒による高効率な可視光水素生成」 前田 和彦（東京工業大学大学院理工学研究科 准教授）
水素貯蔵・輸送媒体に関する技術	「水素貯蔵プロセス高性能化を目指した非正常操作による脱水素反応の検討」 桜井 誠（東京農工大学大学院工学研究院応用化学部門 准教授）
	「水素貯蔵媒体としてのアンモニアの利用を指向した触媒的アンモニア分解反応を実現する基盤技術の創出」 西林 仁昭（東京大学大学院工学系研究科 准教授）
CO ₂ 固定化技術	「水蒸気改質での水素製造における未反応水蒸気を利用したイオン液体ゲル中の分子間ネットワーク形成機構の解明と高効率 CO ₂ 膜分離場の創製」 下山 裕介（東京工業大学大学院理工学研究科 准教授）
	「石炭ガス化ガスからの水素製造に向けた高圧再生型 CO ₂ 化学吸収液の開発」 山本 信（（公財）地球環境産業技術研究機構 化学研究グループ 研究員）



2012年度、2013年度助成対象者およびENEOS水素基金関係者